

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：防災費 目：防災総務費

事業名 地震防災啓発事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

危機管理部 防災課 地域支援係 電話番号：058-272-1111 (内 2746)

E-mail：c11115@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,955 千円 (前年度予算額：1,955 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,955	0	0	0	0	0	0	0	1,955
要求額	1,955	0	0	0	0	0	0	0	1,955
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

県では、防災啓発キャンペーン「災害から命を守る岐阜県民運動」を展開し、自らの命は自ら守る「自助」の取組みとして、災害への備え、家庭での防災対策など、防災啓発を実施している。

また、今後 30 年以内の発生確率が約 70%～80%程度とされる南海トラフ地震も懸念され県民の災害への危機感が高まっている。

こうしたことから、今後の巨大地震に備え、命を守る防災意識の向上、家庭での防災対策を進めるため、引き続き地震体験車を活用した防災啓発に取り組む必要がある。

(2) 事業内容

地震体験車を用いた防災啓発等により、多くの県民の自助意識の一層の高揚を図る。

(3) 県負担・補助率の考え方

県主催のため県負担

(4) 類似事業の有無
無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	124	地震体験車による啓発活動等旅費
委託料	297	啓発パンフレット作製
需用費	1,208	印刷製本費、燃料費
役務費	272	イベント保険料
使用料及び賃借料	54	有料道路使用料
合計	1,955	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・岐阜県強靱化計画

第6章 計画の推進

(別紙2) 施策分野ごとの脆弱性評価

10) 地域づくり・リスクコミュニケーション

(防災教育の推進)

○県民の自助実践を促進する「災害から命を守る岐阜県民運動」については、「命を守るためのとっさの行動」を重点テーマに実施しているが、各家庭での防災対策が重要であることから、さらなる取組みが必要である

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

「災害から命を守る岐阜県民運動」として、平成 21 年度から継続的に県民への防災啓発を行ってきた。令和 3 年度は新型の地震体験車を導入したものの、感染防止のため運休期間が長く動員数において課題が残った。令和 4 年度においては、感染対策を厳に行いつつ地域の実情に応じた防災啓発を実施することで、より多くの県民の一層の防災意識の高揚を図ることを目指す。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2 年度 実績	R3 年度 目標	R4 年度 目標	終期目標 (R)	達成率
						%
地震体験車年間利用者数		0	—	10,000 人	12,000 人	%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>旧型地震体験車が故障したため、令和 2 年度は新型地震体験車を導入した。</p>
令和 3 年度	<p style="color: red;">令和 5 年度当初予算にて追加</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%</p>
令和 4 年度	<p style="color: red;">令和 6 年度当初予算にて追加</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 2	地震対策についての啓発は、防災啓発の根幹をなすものであり、防災タウンミーティングや、シェイクアウト訓練、新聞広告などと共に組み合わせて実施していく必要がある。
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	地震体験による啓発は、体験型の啓発事業であり、特に子どもや家族層に対して強い印象を与えることができるため、非常に有効な手段である。
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	地震体験車を派遣する際には、多くの人に参加してもらうことが重要であるため、防災に関するイベントの際に併せて派遣をしている。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>地震、大雨、大雪、火山などの災害に対して、いかに県民の避難行動、家庭での防災対策につなげるかが重要である。地震対策の啓発について、地震体験車は有効なツールであり、今後も効果的な活用方法を検討していく必要がある。また、防災タウンミーティングなど、その他の啓発活動を含めて効果的に実施していく必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>令和4年度も、地震体験車を用いた地震体験を引き続き実施していく。また、リーフレット配布と組み合わせる等により効果的に防災啓発を行い、災害や緊急時の備えにつなげる。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	

